

2019年度 総合研究所特別研究員 研究活動報告

氏名	肖 越
研究テーマ	初期浄土経典成立史の基礎研究—人間学としての浄土教
研究概要	〈無量寿経〉諸本の詳細に比較を吟味した上で、更にほかの浄土類の経典群を取り込んで文献学の視点から経典の成立の歴史的な背景を究明する。特に、『大阿弥陀経』と『平等覚経』における二つの二十四願の成立を総合的に究明する。引き続き『大阿弥陀経』の前半の英語訳注を行う。

1. 研究活動の概要と研究成果	研究概要に随って、〈無量寿経〉における二つの24願の成立に関して総合的な研究を行ってきた。その成果は、来年度に学会誌に公表する予定である。それに、浄土経典の成立における重要な課題である『無量清浄平等覚経』の成立に関して引き続き究明した。その結果、『無量清浄平等覚経』における二つの偈文を検討し、3世紀に漢訳された『無量清浄平等覚経』の原典は、現存の梵本（12世紀以降書写）によく一致することが分かる。加えて、『大阿弥陀経』の英語訳注の作業を行い、24願の各誓願に英語訳注を再確認し、見出しを付けた。
2. 学術論文・学会発表等	① On the Practical System in the Pure Land sutras (「浄土経典における実践体系」)について英語で発表した(第19回国際真宗学会、中華佛學研究所於台湾。2019年5月23日)。 ② A Critical Translation of the <i>Tōhō-ge</i> And the <i>Ruzū-ge</i> in the <i>Wuliang qingjing pingdengjue jing</i> (『無量清浄平等覚経』の研究における「東方偈」と「流通偈」の批判的な英語訳注の研究). <i>Journal of World Buddhist Cultures</i> 『世界仏教文化研究』3 : 101-134 龍谷大学世界文化研究センター (2020年3月) 査読有り。
3. 今後の課題	引き続き、研究計画を踏まえて、初期浄土経典の成立、及び『大阿弥陀経』の英語訳注の研究を進んで行きたいと考えている。加えて、世界で起きている現実を自分の課題とし、人間学として浄土教の研究を究明したい。